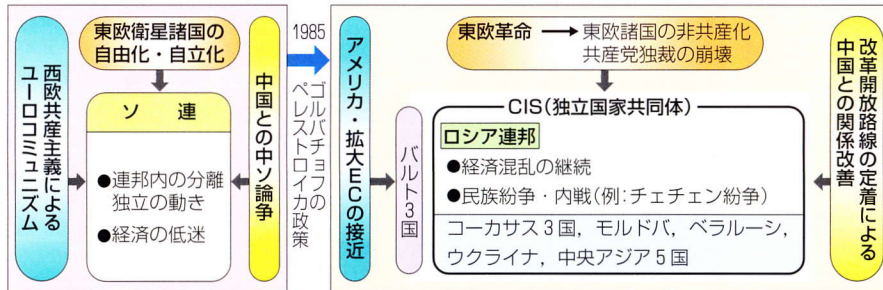


1 戦後のソ連・東欧諸国 (P198-11年)

第1期(戦後) 第2期(戦後)	ソ連	東欧諸国 (P203-1)
1922	1946 第4次五か年計画(戦後復興)(~50)	1945 東欧諸国の人民民主主義国(衛星国)化 (~48)
スターリン	1947.9 コミンフォルム結成	1948.2 チェコスロヴァキア=クーデタ(共産化)
	1949.1 コメコン(経済相互援助会議)設立 .9 原爆保有宣言	.6 ベルリン封鎖(~49.5)
	1950.2 中ソ友好同盟相互援助条約	1949.10 ドイツ民主共和国(東ドイツ)成立
	1952 第5次五か年計画(~56)	1953.6 東ベルリン暴動
	1953.3 スターリン死去	
フルシチョフ	1953 集団指導制(マレンコフ首相)(~55) .8 水爆保有宣言	
	1955.5 ワルシャワ条約機構(WTO)成立(~91)	
	.7 ジュネーブ4巨頭会談(ブルガーニン首相参加)	
	1956.2 ソ連共産党第20回大会 (フルシチョフのスターリン批判・平和共存政策)	
	.4 コミンフォルム解散	1956.6 ポーランド、反ソ暴動(ボズナニ)
	1957.8 大陸間弾道弾実験成功 .10 人工衛星打ち上げ成功	.10 ハンガリー、反ソ暴動(ブダペスト)
	1959.9 フルシチョフ訪米	1961.8 「ベルリンの壁」構築(~89)
	1962.10 キューバ危機、回避	.9 非同盟諸国首脳会議(ペオグラード)
	1963.1 中ソ論争本格化 .8 部分的核実験停止条約	.11 ソ連・アルバニア、国交断絶
	1964.10 フルシチョフ解任	1962 ルーマニア、対ソ批判
ブレジネフ	1965.2 ヴェトナム戦争開始	1968.1 チェコ自由化(「プラハの春」)
	1968 プレジネフ=ドクトリン	.8 チェコ事件(5か国軍の占領)
	1969.3 中ソ国境紛争	1972.12 東西ドイツ基本条約
	1974.2 ソルジェニーツィン(反体制派作家)国外追放	1973.9 東西ドイツ国連加盟
	1977.10 ソ連の新憲法成立	1980.7 ポーランド、ストライキ(~.8)
	1979.12 ソ連軍、アフガニスタン侵攻	.9 ポーランド、自主管理労組「連帯」発足
	1982.11 アンドロポフ、書記長就任	1983.12 ポーランドのフレサ氏がノーベル平和賞受賞
	1984.2 チェルネンコ、書記長就任	
ゴルバチョフ	1985 ゴルバチョフ、書記長就任	
	1986.4 チェルノブイリ原発事故	1988.3 プレジネフ=ドクトリンの放棄(新ペオグラード宣言)
	.6 ゴルバチョフ、ベレストロイカ(改革)路線打ち出す(新思考外交、グラスノスチ[情報公開]など)	1989 東欧革命
	.12 サハロフ(反体制派物理学者)軟禁から解放	.11 「ベルリンの壁」開放
	1988.5 ソ連軍、アフガニスタン撤退開始	1990.10 東西ドイツの統一 東ドイツの消滅
	1989.12 マルタ会談(「冷戦終結」宣言)	1991.5 ユーゴスラヴィア内戦(~95)
	1990.3 ゴルバチョフ、大統領就任 バルト3国独立宣言(~.5)	
	1991.6 コメコン解消 .7 ワルシャワ条約機構解体	
	.8 反ゴルバチョフ=クーデタ失敗 .8 共産党解散	
	.12 ソ連消滅、独立国家共同体(CIS)成立 (P243.47史)	
	ロシア連邦(エリツィン大統領1991~99)(プーチン大統領2000~)	1993.1 チェコとスロヴァキア分離独立

2 ソ連の崩壊



フルシチョフ
第20回党大会でスターリン批判を展開し、「雪どけ」の気運を盛り上げたが、1962年にキューバ危機を引き起こした。東欧諸国の反ソ暴動・中ソ対立を招き、社会主義圏間に亀裂を生んだ。

ブレジネフ
西側諸国との緊張緩和(デタント)を進めたが、東欧諸国に対しては、制限主権論(ブレジネフ=ドクトリン)を唱え、チェコ事件での軍事介入など強硬な姿勢をとった。また、経済の停滞を招いた。

ゴルバチョフ
国内ではベレストロイカ(改革)・グラスノスチ(情報公開)、外交では「新思考外交」を展開し、冷戦を終結させた。

エリツィン 1991年保守派のクーデタで指導力を発揮。大統領となってからは、強引な政治手法が批判された。経済の安定化、民族紛争などに取り組んだ。



ウスリー川上の珍宝島(ダマンスキー島)での武力衝突(1969年)

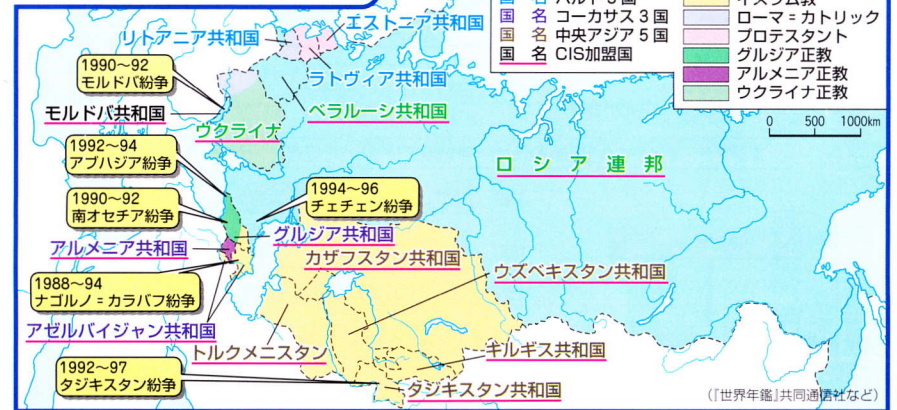
中ソ国境紛争 中ソ対立は、自立更正による独自の社会主義国家を建設しようとする中国と、アメリカとの平和共存政策により世界を2分支配しようとするソ連との対立であった。これはまた、中国国内の実務派(走資派)に対する毛沢東の牽制でもあった。



戦利品のソ連製装甲車に立つ反政府ゲリラ

アフガニスタン侵攻 1979年、親ソ的なカルマル政権の要請を理由に軍事介入。西側諸国はモスクワオリンピック(1980)をボイコット、イスラム民族主義の反政府ゲリラの抵抗も激しく、ゴルバチョフはソ連軍を撤退させた(~89)。

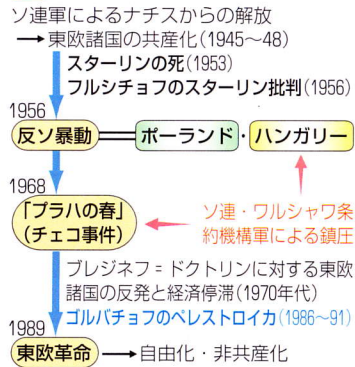
3 旧ソ連邦諸国の特色



4 東欧諸国の動向 (P203~4) (ゲ):ゲルマン系 (ス):スラヴ系 (ア):アジア系 (ラ):ラテン系

国名	旧東ドイツ	ポーランド	旧チェコスロヴァキア	ハンガリー	ルーマニア	ブルガリア	旧ユーゴスラヴィア	アルバニア
人口	人口 1667万人(1990年)	人口 3859万人(1995年)	人口 1562万人(1992年)	人口 1023万人(1995年)	人口 2268万人(1995年)	人口 840万人(1995年)	人口 2130万人(1991年)	人口 365万人(1995年)
民族	民族 ドイツ人(ゲ) 99%	民族 ポーランド人(ス) 99%	民族 チェック人(ス) 64%	民族 マジャーール人(ア) 98%	民族 ルーマニア人(ラ) 88%	民族 ブルガリア人(ス) 86%	民族 セルビア人(ス) 36%	民族 アルバニア人 95%
宗教	宗教 プロテスタント 81%	宗教 カトリック 95%	宗教 スロヴァク人(ス) 31%	宗教 カトリック 64%	宗教 マジャーール人(ア) 8%	宗教 トルコ人(ア) 9%	宗教 クロアチア人(ス) 20%	宗教 イスラム教, アルバニア正教, カトリック
宗教			宗教 カトリック 77%	宗教 ルーマニア正教 80%	宗教 ブルガリア正教 85%	宗教 セルビア正教など		
20世紀の動き	1945 連合国軍による占領 1948 ベルリン封鎖 1949 ドイツ民主共和国成立 1953 東ベルリン暴動 1961 西ベルリンへの労働力流出防止のために「ベルリンの壁」構築 1971 ホネカー政権(~89) 1972 東西ドイツ基本条約 1989 「ベルリンの壁」開放 1990 ドイツ連邦共和国に編入	1918 ロシアなどから独立 1939 独ソによる分割 1945 ソ連軍による解放 1952 人民共和国成立 1956 ポズナニで反ソ暴動。コムウカの改革(~70)食糧暴動 1970 食糧暴動 1980 自主管理労組「連帯」 1989 非共産政権発足 1990 フレサ大統領(~95) 1991 ECIに準加盟	1918 オーストリア=ハンガリー(二重)帝国より独立 1939 ナチスの侵攻 1945 連合国軍による解放 1948 クーデタで共産化 1968 「プラハの春」 1977 ハベルらの「憲章77」 1989 非共産政権発足 1991 ECIに準加盟 1993 チェコとスロヴァキアに分離	1918 オーストリアより独立 1941 枢軸国として参戦 1945 ソ連軍による解放 1949 人民共和国成立 1956 ブダペストで暴動(ハンガリー反ソ暴動), ナジ=イムレ首相失脚, カダル政権(~89)経済改革を試みる 1989 自由化と民主化進展 1991 ECIに準加盟	1877 トルコより独立 1940 枢軸国として参戦 1945 ソ連軍による解放 1947 人民共和国成立 1965 チャウシェスク書記長, のち大統領(~89) 1967 対ソ自主外交路線(西独と国交回復) 1989 ルーマニア革命でチャウシェスク処刑 1990 共産党一党独裁崩壊	1878 トルコの自治国となる 1908 ブルガリア独立 1915 同盟国側で参戦 1941 枢軸国として参戦 1944 ソ連軍による解放 1946 人民共和国成立 1954 ジフコフ第一書記(~89), ハルカン唯一の親ソ路線 1990 共産党一党独裁放棄 1992 ECIに準加盟	1878 トルコよりセルビア・モンテネグロ独立 1918 セルビア人・クロアチア人・スロヴェニア人王国成立 1929 ユーゴスラヴィアに改称 1945 ティトー, ナチス撃退 連邦人民共和国成立 1948 コミンフォルム除名 1980 ティトー死去, 集団指導制 1990 中国と断交, 鎖国体制で経済悪化 1991 連邦解体, 内戦	1912 トルコから独立 1944 ホッジャを中心にしたソ連勢力追放 1946 人民共和国成立, ホッジャ首相・書記長(~85) 1962 コメコン脱退 1978 中国と断交, 鎖国体制で経済悪化 1990 信仰の自由復活 1992 非共産政権発足

5 東欧自立化のプロセス



◆ティトー ユーゴ初代大統領(任1953~80)。第二次世界大戦中バルチザン闘争を指導, 戦後は非同盟・中立政策による独自の社会主義を堅持した。

◆コムウカ ポーランド統一労働者党第一書記(任1956~70)。1956年6月のポズナニ反ソ暴動を機に自由化路線を採用したが, 経済政策に失敗して辞任。



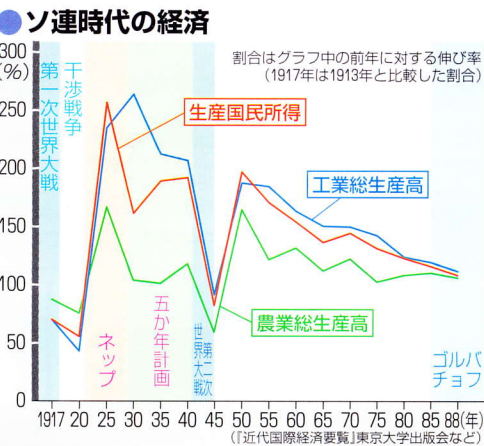
破壊されたスターリン像
◆ハンガリー反ソ暴動 1956年10月スターリン主義政策に反発した民衆が, ナジ=イムレの復権を求めて蜂起。ソ連軍はこれを鎮圧, ナジは処刑された。

◆チェコ事件 1968年ドブチェク第一書記の「人間の顔をした社会主義」を掲げた自由化(「プラハの春」)は, ソ連などワルシャワ条約機構軍の介入により阻止された。



◆フレサ ポーランドの自主管理労組「連帯」初代議長。1990年大統領に当選した(~95)。

「ペレストロイカ」がもたらしたもの



ゴルバチョフが断行した「ペレストロイカ(改革)」は, 硬直したソ連社会に市場経済や言論・信教の自由・民主主義をもたらした。この改革は, チェルノブイリ原発事故を機に始まったグラスノスチ(情報公開)とともに西側諸国の信頼を高め, 冷戦終結の要因となった。しかし, 改革による国家管理機能の低下は物不足を助長, 経済の混乱はエリツィン政権になった現在も好転していない。

◆ソ連時代の国営店



◆マクドナルドのモスクワ店 1991年1月にオープン。



◆ベルリンの壁を壊す市民(1989年11月) 1989年東ドイツ政府は西側諸国への出国・移動の自由化を発表。東ドイツは1990年には西ドイツに編入され消滅。(P217頁)

